

お客様各位

2022年7月20日
株式会社ロブテックス
品質保証部

エアリベッター R1A2 の安全に関する大切なお知らせ

貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は弊社商品に格別なご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
2014年11月～2018年10月まで製造したエアリベッターR1A2において
メンテナンス時の油圧オイルの注入量が過多の場合にフレームキャップの破損
により、タンクユニット部が後方に飛び出す可能性があることが判明いたしました。
事故につながる可能性もございますので、下記について十分ご注意ください
ご確認、ご対応のほどよろしくお願い申し上げます。

お客様には多大なるご心配、ご迷惑をおかけしますことを深くお詫び申し上げます。

記

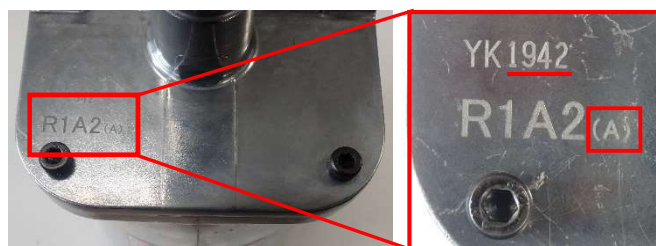
1. 該当機体の確認方法

機体番号の下4桁が 0740 ～ 2339 で、型番の後に (A) の表示がある機体

<シリアル番号 及び型番の刻印場所>



又は



2. メンテナンス時の注意点

本現象は油圧オイルの給油量が過多になった際に発生する可能性が高まります。お客様におかれましては、ご利用中の R1A2 の油圧オイル量が適正であることをご確認くださいませよう願いたします。

尚、油圧オイル量が適正であればフレームキャップが破損することはありません。また、出荷時の油圧オイル量は適正量となっております。

※お手持ちの取扱説明書もしくは HP の『油圧オイル補給についての注意点』をご確認の上メンテナンスいただき、適正量でのご使用をお願いいたします。

特に以下の点にはご注意をお願いいたします。

参考のため取扱説明書の該当部分を添付します。

- ・ジョーケースに緩みがないことの確認。(取扱説明書 11 ページ 手順 2)
- ・フレームヘッドを外して給油を行うこと。(取扱説明書 11 ページ 手順 5)
- ・注油後、フレームヘッドを取りつけ、油止めねじを 7 回転以上緩め、余分な油圧オイルと気泡を抜くこと。

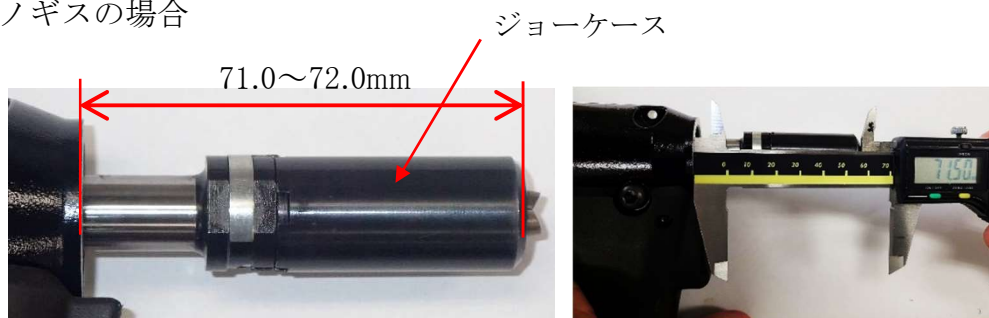
(取扱説明書 12 ページ 手順 11)

3. 適正油圧オイル量の確認方法

オイルピストン突き出し量の測定 基準値 71.5mm ±0.5mm

寸法の確認にはノギスまたは今回配布させていただく寸法測定ゲージを用いてください。

1) ノギスの場合



2) 寸法測定ゲージの場合

OK の状態 (フレーム側に隙間ができる。) 隙間は 1mm 以下



NGの状態（ジョーケース側に隙間ができる）



5. 2014年11月以前の製造機体 R1A2（※型番刻印の後にアルファベットの表記無し）及び2019年1月以降の製造機体 R1A2(B) においては構造が異なり、余分な油圧オイルを出し忘れてもフレームキャップが破損することはありませんが、メンテナンスにおけるオイルの注入時の注意事項は2. 項と同様です。

以下の注意事項をご確認ください。

- ・ジョーケースに緩みがないことの確認
- ・フレームヘッドを外して給油を行うこと
- ・注油後、フレームヘッドを取りつけ、油止めねじを7回転以上緩め、余分な油圧オイルと気泡を抜くこと

R1A2(A)でも油圧オイル量が適正であれば安全にご使用いただけますが、品質改善を目的としてR1A2(B)で用いている部品へ交換することにより同様の改善が可能です。

現在、部品の手配しておりますので準備ができ次第改めてご連絡いたします。交換は無償で行わせていただきます。

R1A2(A) と R1A2、R1A2(B) の見分け方



R1A2(A)



R1A2 16mm

R1A2(B) 7mm

R1A2(A)はフレームキャップが短い
(今回ご案内の該当機体)

R1A2、R1A2(B)はフレームキャップが長い

- ・問い合わせ先 (株) ロブテックス コールセンター

TEL : 072-980-1111

FAX : 072-980-1166

4 シリンダー部の掃除と給油

- 注**
- シリンダー部にゴミ等がたまると円滑性・耐久性に悪影響を与えます。
 - 油圧オイルが減少しストローク不足になった場合は、次の手順で油圧オイル「B10012」（別売）を給油してください。油圧オイルを給油してもすぐにストローク不足になる場合は、シール部の摩耗等が原因ですので修理を依頼してください。

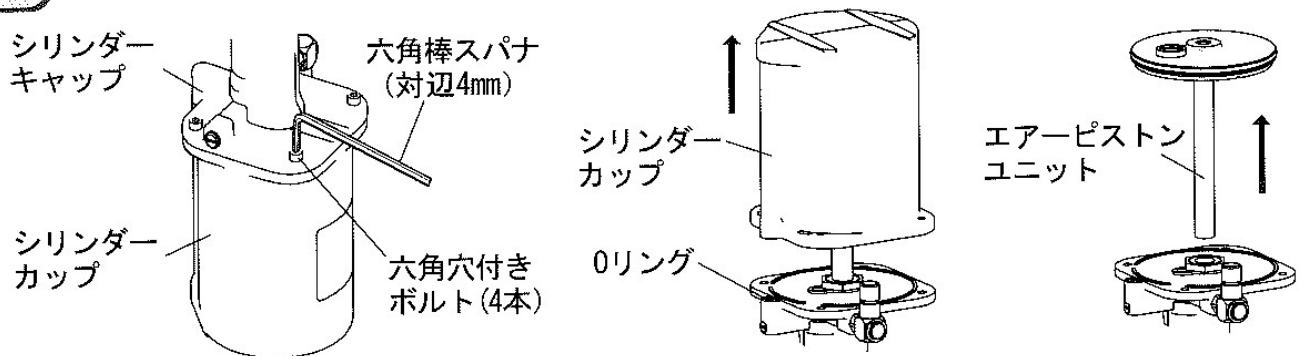
⚠ 注意

- 本機のお手入れ、部品交換等の分解時には必ずエアーの供給を止めてください。エアーが供給された状態で手入れや分解を行うと、部品の飛び出し、オイルのふき出し、予期せぬ動きなどにより事故や傷害を負うおそれがあります。
- 油圧オイル・潤滑オイル・グリースなどの油類はできるだけ皮膚などに触れないようにしてください。皮膚などに炎症をひき起こすおそれがあります。触れた場合は身体から完全に洗い落としてください。

分

- 1) エアーの供給を止める。
- 2) レンチ又はスパナ（対辺22mm）でフレームヘッドを外す。
ジョーケースに緩みがないことを確認する
- 3) 六角棒スパナ（対辺4mm）でシリンダーキャップ上面の六角穴付きボルト4本を外す。
- 4) シリンダーカップを上にして垂直に立てて上方に引き抜く。
- 5) エアーピストンユニットを上方に引き抜く。

解



- 注**
- フレームヘッドを外した状態で作業を行ってください。余分な油圧オイルが入ることでオイルピストンが下がりすぎ、部品が破損するおそれがあります。
 - 本体部を横に向けると油圧オイルがこぼれます。立てて作業してください。

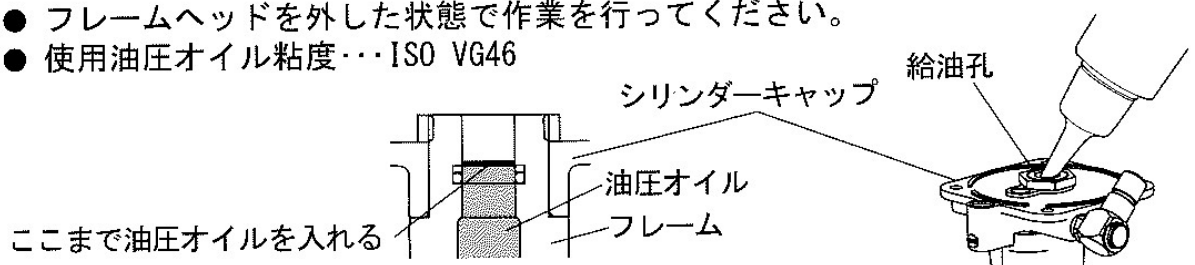
掃除

- 6) ウェス・ブラシ等を用いて各部品を掃除する。

給油

- 7) シリンダーキャップの給油孔から、フレームのペンタシール、Bリングを少し超える位置までエビ印油圧オイル「B10012」（別売）を給油する。

- 注**
- フレームヘッドを外した状態で作業を行ってください。
 - 使用油圧オイル粘度・・・ISO VG46

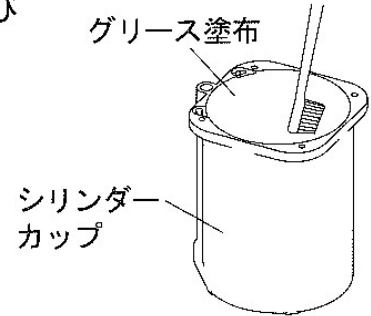
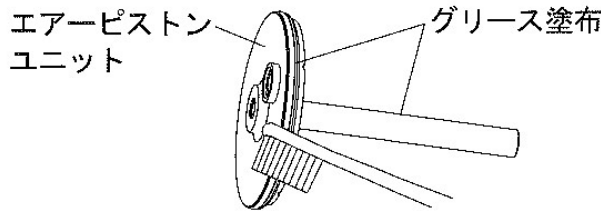




⚠ 注意

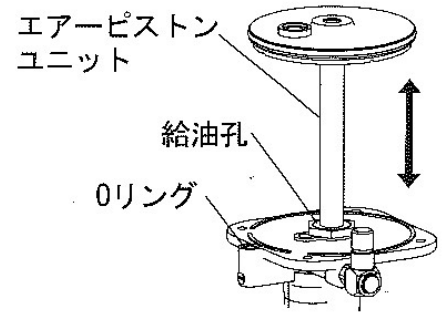
- 油圧オイル、潤滑オイル、グリースなどの油類はできるだけ皮膚などに触れないようにしてください。皮膚などに炎症をひき起こすおそれがあります。触れた場合は身体から完全に洗い落としてください。
- 本機の手入れは注意深く行ってください。付属品の交換や部品交換は取扱説明書に従ってください。けがのおそれがあります。

8) エアーピストンユニットのOリング部・ロッド部およびシリンダーカップ内面にブラシ等でグリースを塗る。



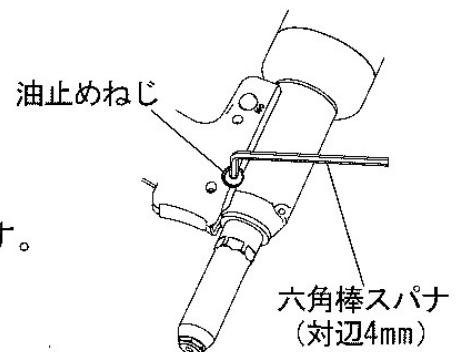
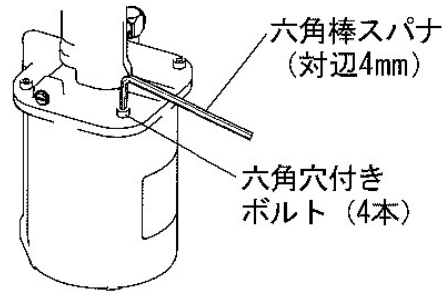
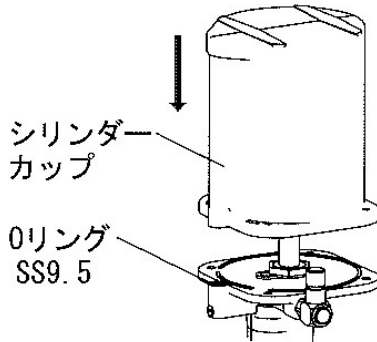
- 注 ● 組み立て時には、各摺動部に必ずグリースなどの潤滑剤を塗ってください。
● グリースはグリース1~2号の使用を推奨します。

9) エアーピストンユニットを給油孔に押し込み、手で2~3回ピストン運動させた後、給油孔からあふれ出した油圧オイルを拭き取る。



組 10) エアーピストンユニットの上からシリンダーカップを組み付け、そのまま押さえ込むようにしながら4本の六角穴付きボルトを締め付ける。

- 注 ● 組み付けは分解と逆の手順で行ってください。
● OリングSS9.5が座グリ部に確実に入っていることを確認してください。



11) フレームヘッドをしっかりと取り付けた後、油止めねじを上にして、六角棒スパナ（対辺4mm）でねじを緩め、余分な油圧オイルと空気（気泡）を出す。油圧オイルが出なくなったのを確認してから、油止めねじを締め直す。

- 注 ● 油止めねじを緩めた時、油圧オイルが勢いよく飛び出すことがありますのでご注意ください。
● 給油後は必ずこの作業を行ってください。行わないとリベット装填に支障が出たり、フレームの破損につながる場合があります。

12) 最後に本体に付着した油圧オイル、こぼれた油圧オイルを拭き取る。

- 注 ● 分解・組立時に油圧オイル内及びシリンダー内に切粉やごみなどが入らないように注意してください。

13. 寸法測定ゲージまたはノギスを用いてオイルピストン突き出し長さを測定する²